



平成28年2月12日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役社長 重田 衛
(コード番号 5103 東証第二部)
問合せ先 執行役財務総務担当 庄司 友彦
(TEL. 04-7131-0181)

平成28年3月期（連結）通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年3月期第3四半期決算を確定する過程におきまして、平成27年11月13日に公表いたしました平成28年3月期（連結）通期業績予想につきまして、足元も状況を勘案し修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成28年3月期通期連結業績予想の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する当期 純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|-----------|----------|----------|-------------------------|----------------|
| 前回発表予想(A) | 11,940百万円 | 1,700百万円 | 2,340百万円 | 100百万円 | 2.05円 |
| 今回修正予想(B) | 12,200百万円 | 2,100百万円 | 2,400百万円 | 150百万円 | 2.71円 |
| 増減額(B-A) | 260百万円 | 400百万円 | 60百万円 | 50百万円 | — |
| 増減率(%) | 2.18% | 23.53% | 2.56% | 50.00% | — |
| (ご参考)前期実績 (平成27年3月期) | 10,786百万円 | 674百万円 | 635百万円 | 92百万円 | 1.96円 |

2. 修正の理由

当社連結会計に帰属する主要な4事業において、まずDigital Finance事業につきましては、ASEAN地域への進出及び事業展開が順調に拡大し続け予想をはるかに上回る売上の拡大を示しております。また、長らく業績の低迷で苦しんでおりましたゴム事業につきましては、これまで当社グループが一丸となって推進してきた管理体制の改革・原価軽減策等が実を結び、当四半期において利益計上をするに至りました。

一方、当社の持分法適用関連会社の行う主要な2事業である、和菓子の製造販売を行う食品事業、リゾートホテルの運営行うリゾート事業につきましては、リゾート事業において一時費用が発生致しまし

たがそれぞれお客様からご支持をいただき、その業績は堅調に推移しております。

コンテンツ事業につきましては、日本事業が拡大基調となる一方、中期的なさらなる発展のため人材の確保等を進めました。またタイ王国において日本のアニメコンテンツにイベントを開催し、タイ子会社を拡張することで、ASEAN地域における事業活動を目指すなど投資的経費を投入致しました。スポーツ事業につきましても、工事部門が不調であるとともに、大阪府において新たなテニススクールの開校を目前に控え今後の事業拡大の為の仕込みを行ってまいりました。このような不調部門や投資的経費の投入を行いながらも、上記の堅調さがこれを超え、全体として予想を上回ったものです。

当社といたしましては、本日平成28年3対期第3四半期決算短信を公表いたしました。当該実績値と、上記に記載させていただきました現在の当社グループの経営状態を考慮して、売上高12,200百万円（当初予想比2.18%の増加）、営業利益2100百万円（当初予想比23.53%の増加）、経常利益2,400百万円（当初予想比2.56%の増加）、当期純利益150百万円（当初予想比50.00%の増加）に修正させていただくことといたしました。

足元を見ましても、ファイナンス事業の急速な拡大と利益の増加は予想を常に上回っており、この基調が加速すると考えております。ゴム事業は日本事業の固定費削減の成果から見通しは堅調とみられ、2015年に極めて厳しかったマレーシア経済の回復によるマレーシア事業が持ち直しており、インドネシア並びにベトナムでの新子会社の受注も進んでいることから、堅調が継続すると考えております。

コンテンツ事業はさらに投資的経費の投入は進むものの、収支の改善が進むと予想され、スポーツ事業もテニスクラブ再生運営事業が継続して好調であることから今後の見通しは明るいと考えております。また食品事業並びにリゾート事業は引き続き昨年より利益が増加するとみられます。

以上の足元の業況から、上記の業績予想の修正を行ったものです。

以上